

ただいまの予算上程に対して反対の討論を行います。

これまで長期にわたって、議会等の審議は2カ月という短い間でありましたけども、機関車の問題は大変長きにわたって町民も含めいろんな議論が行われてまいりました。

しかし、きょうのこの予算、これであの機関車が解体をされるということを目前にして、大変私は感慨が深い思いがいたしてなりません。

歴史に残るきょうは一日であろうと思います。何度も申し上げますが、町長も、そして町民も商工会も、みんなが残してほしいという、そういう願いを議会が否定をしたと。その結果を受けて、町長は解体をするという決断をしたと。私はこの歴史にきょうの一日がどう記されるのか、そのことを思うと本当に残念でなりません。

近い将来、あの豎坑櫓が築100年を迎え、そしてその歴史を語るときに、あの場にこういう機関車があった、そしてそれはくしくもぼろぼろになるまで行政も放置し、私も議会にも責任があるのです。行政ばかりを責めていますが、我々もそこに責任があったわけです。そのことを反省しながら、次に新しい時代に向けてどうこれを活用していこうかという、そういう熱い思いの請願なり声を私たちは聞き入れることができなかつた。その思いを考えると断腸の思いであります。

中には壊せという声もあるでしょう。保存せよという声もあるでしょう。しかし、そういう声をいろいろと吸い上げながら、町民とともに議論をしながら、それがまちづくりであり、コミュニティーであろうというふうに思います。

これ以上この予算について審議はなされないとはいえますけども、最後の最後、議員の皆さん、これが可決をされれば解体ということになるわけです。

私は、あの場に保存という方法もあった。その議論は一度もしていない。よその方から聞きますと、志免町の庁舎の前にバス停があると。あそこに人が来たときに、あそこに機関車がある、それを見て、その話の物語の中で、次に鉄道公園に行って、豎坑櫓を見て、ぼた山を見て、そうするとそこに集う人たち、そこに商工もいろんな意味で活性ができてくるということをやその方からも熱く語られたこともありました。志免町外の人がそういうことを語ってくれる。

そういう思いを持って町長も、また町民の皆さんもいろんな思いで請願を出されてきたんだろうと思いますが、残念ながら先ほどの予算委員会の中では否決をされてしまいました。

これは最後の最後であります。私は、是非そういうもろもろのことを考えて、最後にこの予算を否決して、もう一度、今の場所に残すことも含めて臨時議会を持ってやることもできるわけですから、そういうことを切に願っていることを申し上げて、本予算、第91号議案に対する反対の討論といたします。